

設立10周年記念行事(シンポジウム・サミット・式典・祝賀会)参加総数183人

7月7日(日)開催の第1次記念事業は、午前9時10分サミット受付開始から、午後7時30分の万歳三唱・閉会まで、10時間を超える行事が続きました。150部用意した資料が不足する大盛況となりましたが、心配された体調不良になる方もなく無事終了することができました。

シンポジウム「平泉と並び立つ『比爪』の実像を探る」では、柳原敏昭東北大学大学院教授が基調講演。調査報告・課題提起を行った4人の先生方を加えたパネルディスカッションは、羽柴直人紫波町文化財調査委員がコーディネーターを担当し、文献史学・考古学の専門家が同席する初めての試みとして期待通りの大きな成果を得ることができました。

サミット「全国の“樋爪さん”大集合in紫波！」では、北海道・関東・北陸・関西から集結した11家族17人の皆様が、トークステージ「樋爪一族の歴史を紡ぎ、絆を結ぶ」に登壇し、それぞれのルーツや伝承語り合いました。ご先祖への熱い思いと、樋爪氏の子孫が各地で活躍してきた姿を、窺い知る貴重な機会となりました。今後さらに一層、樋爪一族の輪の広がりが予感される内容でもありました。

ご支援ご協力をいただいた多くの方々により、この事業が成功できたことに感謝いたしております。

—岩手県立博物館テーマ展『比爪—もう一つの平泉—』パンフレット—18頁

3 比爪—奥州藤原氏第二の拠点— ③ 外縁遺跡

《毘沙門天立像(紫波町遠山 正音寺)(2)》

毘沙門天立像は像高約175cmで、材質は桂材です。桂材一木を割ってくりぬいた後に、再び貼り合わせる「割り矧ぎ造」という技法で造られています。両手、持物、沓が欠損しており、容貌も磨耗のため著しく損なわれています。また、足下の天邪鬼も失われています。左腕は上向になっており、「宝塔」を捧げていたと推測されます。また右腕はやや肘を曲げ前に突き出しており、「宝棒」か「戟」を執っている形態です。頭部は結髪で宝冠を被っていません。造形技法や形態から平安時代後期の製作年代とされています。年代的に奥州藤原氏の時代と重なり、像の制作、安置に比爪の関与が想像されます。



岩手県指定文化財：毘沙門天立像(正音寺)

《《《 8月～9月行事予定のお知らせ 》》》

8月21日 (水曜日)	第104回月例発表会 ※ 前回出席者は、前回の資料を持参すること。	午後7時から午後9時まで 発表者：宮 良 男 テーマ：日本の仏教 6 発表者：お世話チーム各スタッフ他 テーマ：樋爪さんとの思い出など
9月18日 (水曜日)	第105回月例発表会	午後7時から午後9時まで 発表者：(未定) テーマ：
9月22日 (日曜日) ～23日 (月曜日)	設立10周年記念 県外研修旅行	阿津賀志山防塁と12世紀の遺跡等を巡る 泰衡の異母兄、西木戸太郎国衡が、頼朝を迎え撃った阿津賀志山防塁。奥州藤原氏が戦を交えた唯一の場所で、往時を偲ぶとともに関連遺跡を巡る一泊二日の旅です。 ～ 詳細は別紙をご覧ください。～

